

以文社

新刊のご案内

03月09日(取次搬入)発売予定!

高村峰生 著

# 触れることのモダニティ

D・H・ロレンス、A・スティーグリッツ、W・ベンヤミン、M・メルロ＝ポンティ

プラトン、アリストテレス以来の西洋文明の伝統では、触覚はしばしば「最も下等な」感覚と捉えられ、知的なものや詩的なものと結び付いた「高貴な」感覚である視覚と対置されてきた。本書は、モダニズムの時代の芸術、文学、哲学の検討を通じ、20世紀前半における触覚の言説やイメージがこのような感覚の伝統的な階層区分に対して転覆的機能を持っていることを示す。そしてそのような転覆は、動物と人間、原始的なものと文明的なものなどの区分の揺らぎとも関わり、この時代の西洋的な価値体系の地殻変動にも連なっている。



## 【目次】

- 序論 触覚とモダニズム
- 第一章 後期D・H・ロレンスにおける触覚の意義
- 第二章 スティーグリッツ・サークルにおける機械、接触、生命
- 第三章 ヴァルター・ベンヤミンにおける触覚の批判的射程
- 第四章 触覚的な時間と空間—モーリス・メルロ＝ポンティのキアスム
- 結論

## 【著者】

高村 峰生 (たかむら みねお)

1978年東京生まれ。東京大学文学部英文学科卒業。同、人文社会系研究科修士課程を修了。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で博士号を取得。

(Ph.D in Comparative Literature, 2011年)。現在は神戸女学院大学文学部英文学科准教授。専門は20世紀の英米文学・文化、および比較文学／表象文化論。

共著に『文学理論をひらく』(木谷巖編・北樹出版、2014年)、『英文学研究』、『表象』、『ユリイカ』などに論文やエッセイを発表している。

A5判 上製カバー装 320頁 本体価格:3,200円 (定価:3,456円)

希望陳列コーナー: 哲学・現代思想

以文社 ISBN 978-4-7531-0339-3 C0010 本体価格:3,200円 (定価:3,456円)

帳合・番線	ご希望冊数	書名
		<b>触れることのモダニティ</b> D・H・ロレンス、A・スティーグリッツ、 W・ベンヤミン、M・メルロ＝ポンティ  高村峰生 著

※指定配本の都合上03月01日までにFAXまたは電話にてご返信お願い致します。